

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習指導Ⅲ Guidance in Fieldwork of Social welfare Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格必須)	相談援助実習Ⅰ単位取得者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保	福祉棟3階	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助実習Ⅱを見据え、相談援助実習Ⅰの振り返りを行い、報告会を行う。課題の整理を行いⅡ期相談援助実習先を決定する。機関・施設概要理解、利用者やニーズ、社会資源等の理解を深める事前学習を行う。実習計画書を作成する。				
授業の目標				
①相談援助実習Ⅰの振り返りをし、相手に伝わる内容で報告することができるようにする ②自らの課題を見つけ、自分の目指す領域を絞り込み、実習先を選定することができるようにする。 ③実習先の事業・サービスや職種、利用者の特徴等を十分に捉えることができるようにする。 ④実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術を捉えることができるようにする。				
授業の方法				
講義および演習。実習の目的や流れ、各演習につながる内容については、随時講義を行う。 実習領域の理解、実習施設・機関の研究、自己紹介書・実習計画書の作成は個人ワークとして実施する。				
学習の成果（学習成果）				
自ら選定した実習先で実施されるサービス・事業の根拠となる法律・制度の構成・役割を十分に確認して、相談援助業務の展開を捉え、課題設定にもとづいた適切な実習計画書を作成することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスに沿って授業のねらいと進め方、成績評価の方法等を説明） Ⅰ期実習の振り返り① 自己評価、実習報告会の準備 【課題「Ⅰ期実習報告書」】			
第2回目	Ⅰ期実習の振り返り②：実習記録の見直し			
第3回目	Ⅰ期実習の振り返り③：Ⅰ期実習報告会			
第4回目	Ⅱ期実習施設選択作業・面接等			
第5回目	個別学習：実習施設・事業の理解			
第6回目	領域別学習：実習分野・領域の政策動向等の理解			

第7回目	個別学習：実習先の実施事業と地域の理解①（実習先アセスメント）	
第8回目	個別学習：実習先の実施事業と地域の理解②（実習先アセスメント）	
第9回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成①	
第10回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成②	
第11回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成③	
第12回目	実習記録の書き方	
第13回目	実習関係書類の準備 【「自己紹介書」「実習計画書」提出】	
第14回目	事前訪問について、実習報告書の書き方、実習報告の方法について	
第15回目	実習事前オリエンテーション	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	40%	以下の視点で評価する。遅刻欠席がなく、授業に必要な教材と課題をそろえ、意欲的に参加している。相談援助実習Ⅱの実習先選定に向け、事前学習、見学・ボランティアなどを積極的に行っている。
レポート	20%	I期相談援助実習報告書：評価基準Sは、自ら課題をみつけ取り組んでいること。実習に向けて有意な内容であること。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	10%	I期相談援助実習報告会の発表準備、態度を総合的に判断する。：評価基準Sは、資料や口頭原稿などの準備を行い、聞き手にわかりやすく発表できていること
その他	30%	自己紹介書、実習計画書：評価基準Sは、積極的に取り組み、事前学習を踏まえ、自己のもつ課題と向き合い作成できたかどうか、期日厳守にて清書が提出されること
教科書と参考図書		
教科書：相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱで使用したもの		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：社会福祉士（生活相談員）、介護支援専門員（ケアマネジメント）職歴：通算4年1ヶ月） 実習に関する諸連絡があるため授業は必ず出席をすること。やむを得ず欠席をした場合は、内容をクラスメイトに確認し、書類や課題は次回授業までに担当教員まで取りに来ること。		